

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市衛生研究所再整備に関する懇話会		
事務局 (担当課)		衛生研究所 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 4 8 (直通)		
開催日時		令和 7 年 3 月 2 8 日 (金) 1 1 時 0 0 分～1 1 時 4 5 分		
開催場所		衛生研究所 1 階 研修室		
出席者	委 員	6 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人 (別紙のとおり)		
	事務局	3 人 (衛生研究所長、外 2 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		(1) 再整備基本構想 (案) について		

議 事 の 要 旨

(1) 再整備基本構想(案)について

再整備基本構想(案)について、事務局より説明を行ったのち、委員より意見聴取を行った。

○大谷委員

信頼性確保の取組については、検査結果の正確性や妥当性を証明するために非常に重要である。

臨床においては、検査結果に基づいて医療行為が行われることを踏まえると、検査結果が正確であることが前提となっており、検査の精度管理の枠組みや体制を整備し、検査工程や結果の確認など日々行われているものである。

こうした点を踏まえても、公衆衛生に係る検査における信頼性確保の取組は非常に重要なもので、その体制整備は必要不可欠といえる。

○大屋委員

神奈川県衛生研究所は茅ヶ崎市に移転した際、PFIにより再整備を行った。PFIのメリットとして、施設管理の運営や検査器具の洗浄等をPFI事業者が担っているため、職員が調査研究に集中できる環境であることが挙げられ、デメリットは特にない。

○前橋委員

横浜市衛生研究所は、面積が3,000㎡程度と狭小な敷地への移転であり、高層の整備となった。理化学・微生物を機能ごとにフロアを分け、検査導線はそのフロアで完結することで効率的な検査導線となっている。

高層整備のデメリットとして、共用部分の面積が増加してしまうため、検査の専有面積が相対的に減ってしまうことが上げられる。

○古谷野委員

川崎市健康安全研究所は国際戦略総合特区に整備され、研究機関に特化した施設の1フロアに整備されており、耐震性についてもしっかりした施設である。

1つのフロアに検査機能を集積しているため、効率的な検査導線を踏まえた検査室の配置となっている。

信頼性確保部門の体制については、再整備の際に人員の確保も含め、機能を強化することが重要と考える。

○横井委員

千葉市環境保健研究所は令和5年に移転整備を行ったが、保健所から離れた場所への対応として、保健所職員が現場から直行して検体の搬入や検査依頼を行うために、保健所職員が検査依頼等の事務処理を行う部屋の整備や検査依頼に係るシステムの導入を行った。

施設整備に当たって、地域住民に説明を行ったが、特に反対の意見は無かった。

相模原市衛生研究所再整備に関する懇話会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	大谷 慎一	北里大学医学部 講師	会 長	出席
2	大屋 日登美	神奈川県衛生研究所 微生物部長	副会長	出席
3	前橋 昌幸	横浜市衛生研究所 精度管理・企画担当係長		出席
4	古谷野 雅司	川崎市健康安全研究所 副所長		出席
5	盛崎 健一	川崎市健康安全研究所 課長補佐		出席
6	横井 一	千葉市保健所 環境衛生課長		出席